

音 楽 研 究 会 部 会 記 録				
日時	平成29年 5月 10日 (水) 15:30~16:45			
部会名	研修部 授業実践部会		主任	今泉 美保
参加数	25名	司会	今泉 美保	記録 須田 直之
研 修 内 容	「新学習指導要領について」 講師：さわの里小学校校長 後藤俊哉 先生 場所：横浜市立桜岡小学校			
	<p>○新学習指導要領が告示され、新しく変わった点について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容は大きく変わらないが、目標の「書きぶり」がだいぶ変わった。これは、全教科共通している。音楽科では特に、〔共通事項〕の内容に変化があった。このような変化の背景には、ニュースで報道されているように、AIの発達による職業選択の変化等、未来の状況に対応できる「思考力、判断力、表現力」を育むために、すべての教科をこの3観点で指導・評価するという方針になったためである。</li> <li>・その表れとして、現行にはない、「見え方、考え方」を全教科が打ち出している。</li> </ul> <p>○「社会に開かれた教育課程」とは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携することである。たとえば音楽を地域の方に聴いていただいたり、地域の方をゲストティーチャーとして招いて授業をしていただいたり、従来のことと変わらないけれども、「こういう姿の子どもたちを育成したいので、こういう学習をします。」というスタンスを地域にも示していくことが求められるようになる。</li> </ul> <p>○「アクティブ・ラーニング」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブ・ラーニングという言葉は、単に方法論を示しているのではない。「主体的・対話的で深い学び」を求めていく。</li> </ul> <p>○〔共通事項〕について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〔共通事項〕については、「低学年は」といった括りがなくなり、包括的に捉えられるようになった。すなわち、低学年でも、縦と横の関係に気付くことも考えられる。しかしながら、低学年は「呼びかけとこたえ」、「反復」、中学年は「変化」、高学年の「音楽の縦と横の関係」、といった基本的な考え方は大切にしたい。</li> <li>・新学習指導要領では、「問いと答え」は「呼びかけとこたえ」となった。また、低学年の「曲の気分」は、「曲想」に統一された。</li> <li>・各分野／領域の目標の中のア、イ、ウは、「アが思考力・判断力・表現力」「イが知識」「ウが技能」という書きぶりがなされているので、資質・能力で書かれていることを理解していく。</li> <li>・「作曲家の思い」という記述は、著作権教育も関連している。</li> <li>・鑑賞については、鑑賞の技能はないので、アとイだけ。ウはない。</li> <li>・一番変わったのが、音楽づくりである。(ア)が従来のアの即興的に表現する活動、(イ)が従来のイの音を音楽に構成する活動、である。</li> <li>・主体的・対話的な学習により、学びが深まることで、思考力・判断力を育てることが大切。</li> </ul> <p>○日頃の授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こう吹きましよう、というのではなく、子ども達が色々試した結果、「自分で吹いて示せる子」を目指せるといい。先生の言われるままに演奏しても、子ども達は育たない。</li> <li>・「～しましよう」が多くなっていないか、レッスンになっていないか。</li> <li>・「無意識を意識化させる」ための発問が大切である</li> </ul>			